

# 平成 28 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【和歌山県広川町】

実施報告書  
(概要版)



## 和歌山県広川町について

広川町(ひろがわちょう)は、和歌山県の中位に位置し、有田郡の最南端にあります。

人口は約7,300人、総面積約65km<sup>2</sup>のエリアに海、山、川と三拍子揃った美しい自然環境のなかで、四季を通じた磯釣りや温泉、文化財など豊富な観光資源をもつほか、柑橘栽培が盛んな農業、沿岸漁業や海産物加工、海洋レジャーから林業まで幅広い産業のある町です。

現在、広川町では、長期総合計画において「稲むらの火と笑顔のあるいきいきとしたまち 広川」をまちの将来像に掲げ、毎年11月5日に行われる津浪祭の後に実施する地震・津波防災訓練をはじめ、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

## 訓練概要

- 訓練想定：11月5日（土）午前10時20分に、南海トラフ巨大地震が発生。広川町では最大震度7を観測し、家屋の一部では倒壊等の被害が発生し、和歌山県全域に大津波警報が発表された。児童・生徒・園児及び町民らは地震発生による身体防御行動の後、津波避難場所への避難行動を開始した。
- 実施日時：平成28年11月5日（土）10：20～14：00
  - シェイクアウト訓練・列車緊急停止訓練 10：20～10：22
  - 津波避難訓練、安否確認・炊き出し訓練 10：22～10：50
  - 防災講演会（3箇所）・防災展示等 10：50～14：00
- 主催：内閣府、広川町
- 共催：西日本旅客鉄道株式会社
- 参加者数：1,492名（すべての訓練ののべ参加人数）
- 参加機関：広川町立子ども園・小学校・中学校、和歌山県立たちばな支援学校、ポップ保育園、広・山本・西広・唐尾の各地区住民、広川町消防団、広川町、湯浅警察署、気象庁和歌山地方気象台

## 当日の訓練内容

### 10:20～ シェイクアウト訓練

これまで授業時間中に実施してきた小中学校のシェイクアウト訓練は、初めて休憩時間中に行うことで在校時の地震発生への対応力の向上を図るとともに、各家庭等では地震発生時にとるべき防御行動を確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼同（休憩時間・校庭）



### 10:20～ 列車緊急停止・避難誘導訓練

地震発生のお知らせを受け列車が緊急停止し、乗客の自力避難を促すとともに、避難はしごを用いた要支援者の避難訓練を行った。乗務員は、車外に脱出した乗客に対して、最も近くの避難場所である広八幡神社への避難誘導を行った。

▼緊急停止・避難



▼津波避難誘導



### 10:22～ 避難訓練、安否確認・炊き出し訓練

沿岸部の小中学校等と住民が、9箇所の避難場所に避難する訓練を行うとともに、安否確認訓練を行った。また、広八幡避難場所、和歌山県立たちばな支援学校では炊き出し訓練を実施した。

▼避難訓練



▼安否確認訓練



### 10:50～ 小中学生対象の防災講演会、防災展示等

避難訓練終了後、広八幡神社境内で列車乗車時の避難方法を、南広小学校で地震・津波に関する講演を、それぞれ開催した。稲むらの火の館駐車場に起震車を展示するとともに、山間部で初めて土砂災害に関する講演を行うなど、町全域で防災意識の高揚を図って訓練を終了した。

▼列車避難講演会



▼土砂災害講演会

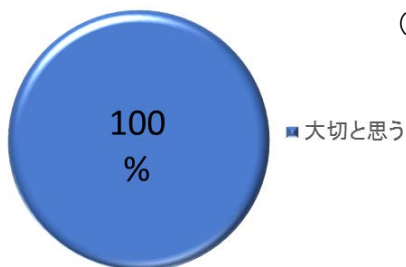




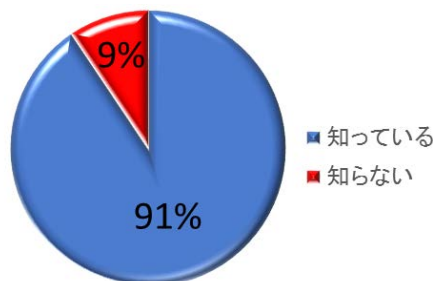
## アンケート結果

町立の小中学生の防災意識や津波避難対策への浸透状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

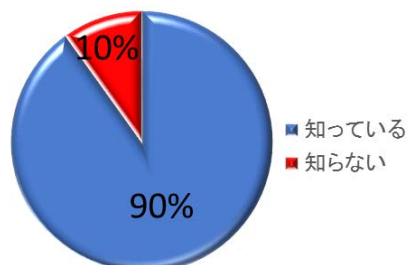
問 地震・津波避難訓練は大切だと思いますか？  
(回答数：273人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？  
(回答数：414人)



問 お家にいる時、登下校時の避難場所を知っていますか？  
(回答数：414人)



## 訓練の評価

訓練当日は天候に恵まれ、児童、生徒、園児、地域の住民、列車乗客等あわせて1,492名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練等に取り組んだ。

町の教育委員会も協力し、訓練実施後に実施した小中学校生へのアンケート結果などから、本訓練は以下のように評価できるものであった。

- 広川町での過去の災害のできごとに由来した従来の「津波防災の日」が平成27年12月の国連総会本会議で「世界津波の日」として制定されて初めての訓練実施であり、各方面から注目を集めるなか、参加者は普段どおりの訓練を沈着冷静に実施した。
- 児童・生徒が「津波防災の日」を知っている割合は、2年前から1.2倍に伸長し、継続的な訓練や防災教育の効果が認められた。
- 列車移動中の地震・津波への対応、山間部での土砂災害の備えなど、従来の訓練では想定できなかった条件での訓練を実施でき、町の総合的な防災対策に大きく貢献した。

一方で、次のような課題があげられる。

- 町全域に自主防災組織が設立し、組織ごとの訓練が熱心に取り組まれているものの、大規模災害が発生し、関係者が一斉に避難する状況の想定や、対応策の検討、合同訓練なども進めていく必要がある。
- 高齢化が進むなか、避難途中で転倒等で怪我を負う可能性もあり、応急手当、共同搬送など、共助の視点を加味した訓練に発展させる必要がある。
- 漁業で取組まれる釣り場への渡しをはじめ、観光・レジャー客への対応のための訓練を考えていく必要がある。